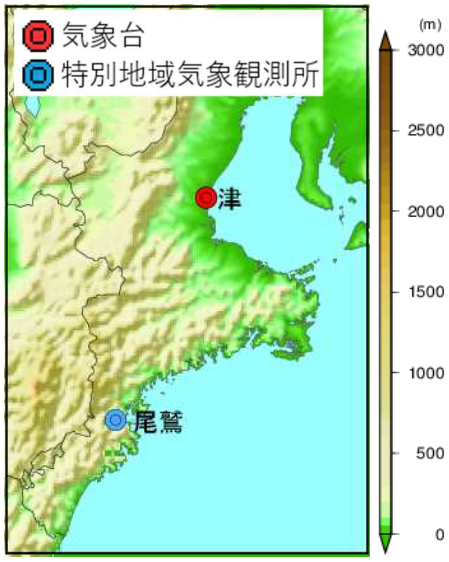
三重県



三重県の地勢

三重県は本州中央の紀伊半島東部に位置しており、「鷲」が羽を広げた形で南北の長さ約 170km、東西の幅 10～80km で、面積が約 5,774 km²(全国第 25 位)となっている。北は養老山地と木曽三川と呼ばれる木曽川、長良川、揖斐川の三河川を境に愛知県、岐阜県と接している。西は鈴鹿山脈、信楽山地、台高山脈及び紀伊山地を隔てて、滋賀県、京都府、奈良県及び和歌山県の飛び地と接している。また、南は熊野川を境にして和歌山県と接している。東は約 1,100km に及ぶ海岸線が伊勢湾と熊野灘に臨んでいる。

また、三重県は北勢、伊賀、中勢、南勢(伊勢志摩)、東紀州の 5 地域から構成されている。これらは旧律令国の伊勢、伊賀、志摩の全域と紀伊の一部にまたがる領域だった所で、山地や河川が自然の境界となってそれぞれの地域を特徴づけており、さらに文化的な多様性をも醸し出している。

三重県の気候

三重県は太平洋岸気候区に分類される。また、南北に縦長な地理と、平野部、盆地、山地、熊野灘沿岸など地形が起伏に富んでいることから、これらの複雑さから生じる特徴があり、その特徴から大きく伊勢平野、熊野灘沿岸、上野盆地、山地の 4 つの地域に区分けできる。

伊勢平野は、県北部から中部の海岸沿いに広がり、比較的温和な気候となっている。また、冬には鈴鹿山脈や山麓に降雪をもたらした北西の季節風が、乾燥した「空っ風」となって平野部を吹き渡り伊勢湾へと吹き抜ける。この北西の季節風は「鈴鹿おろし」と呼ばれる。

熊野灘沿岸は温暖な気候となっている。紀伊山地が連なる南東斜面に位置することから、熊野灘から流れ込む暖かく湿った空気により雨が降りやすく、県内では最も降水量が多い地域となっている。特に、尾鷲から大台ヶ原山系一帯は我が国屈指の多雨地帯として知られ、尾鷲特別地域気象観測所は、全国の気象官署の中でも降水量が多い。

上野盆地は、盆地特有の内陸性気候区の特徴を持つ。夏と冬の気温差が大きく、年間を通して霧の発生することが多い。特に秋の霧の発生が顕著である。降水量は県内では最も少ない。

山地は、鈴鹿山脈から紀伊山地が該当する。

鈴鹿山脈の御在所岳山頂付近には県内唯一のスキー場がある。また、紀伊山地は熊野灘沿岸と並んで降水量が多い。

地形データには USGS（アメリカ地質調査所）の GTOPO30 を利用した。